

**令和 6 年度 第 2 回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会
会議録**

日 時	令和 7 年 2 月 12 日（水）午後 4 時 30 分～午後 5 時 20 分
場 所	こまきこども未来館 会議室（ラピオ 2 階）
出 席 者	【委員】4 名（※敬称略） 梶田光俊、水野一哉、林文通、川尻卓哉 【事務局】5 名 こども未来部次長、多世代交流プラザ所長、事業推進係長、係員 NPO 法人 10 人村（受託者）（1 名） 【傍聴者】なし
会 議 資 料	1 次第 2 資料 1（令和 7 年度活動計画） 3 資料 2（令和 6 年度発明クラブ通信） 4 資料 3（令和 6 年度前期発明クラブ員保護者アンケート） 5 資料 4（令和 6 年度後期発明クラブ員保護者アンケート）
会 議 内 容	1 委員長あいさつ 2 議題 (1) 令和 6 年度の活動報告及び令和 7 年度の活動計画について 3 その他 (1) 今後の予定について
会議要旨 事務局	1 委員長あいさつ 2 議題 (1) 令和 6 年度の活動報告及び令和 7 年度の活動計画について ※資料 1, 2, 3, 4 の説明 ・「とりあえずやってみよう！」が合言葉。前期はこどもたちのやりたいことをどんどんやらせるかたちで「秘密基地作り」を実施。工務店の方の講義や、建築モデルを見学する機会を設け、秘密基地作成のヒントを得ながら進めた。完成後は保護者に実際に見てもらった。 ・後期は弁理士さんの知財授業からはじまり、「卵を守るパッケージ作り」を実施。指定した材料と条件で作成したパッケージで本物の卵を落として挑戦した。半数以上が天井の高さからでも割れないパッケージを生み出し、失敗の経験も大切とはいえ、達成感を得ながら進めることができた。「誰もが夢中になる遊具をつくろう」では遊具の開発、施工、管理を専門とする方が初回の講義だけでなくその後も毎回協力してくれ、無事に年間の活動を終えた。 ・トヨタ産業技術記念館にて『創意くふう展』を見学。初めての外での活動となった。こどもたちは想像以上に興味を持っており、他の子の作品を見てすごく刺激を受けたという声もあった。

	・令和5年度は失敗ができない、試行錯誤ができないという問題があったが、何度も何度も挑戦する姿や、繰り返す姿が見られ、少しずつ改善できている実感があった。一方で課題探しが難しい。挑戦の第一歩を踏み出せるよう、丸投げにならないよう、令和7年度の計画をたてた。 ・同じテーマでも課題の出し方を変えることでこどもたちの更なる工夫に繋げることや、活動を通して普段の生活と防災がそのまま直結しているという視点がでてくることを期待している。また、『創意くふう展』を見学した際、こどもたちのなかでも「発明は意外とこのくらいで良いんだ」という気づきがあった。身近な自分たちの不便を解決するものを作る機会もつくりたいと考えている。企業の協力もあり、ショールームの見学も予定。 ・活動日や参加費、講師体制は変更せず、安全確保のため募集人数を20名から16名へ減らす予定。近隣高校へも活動のサポートを依頼している。
林委員	《質疑応答》 令和5年度と比べて試行錯誤する子が増えたとあったが、それはリピーターが増えたことが要因か。
事務局	リピーターは全体の半分程度で大きく変わらない。課題の与え方が関係していると考えている。これまでは「片手で切れるトイレットペーパー」など与えられた課題に対して、ぱっと思いついたものが完成すると「これで良い」と終わる子が多かったように感じるが、「卵を守るパッケージ作り」では実際に卵を落とすまで結果がわからないこともあり時間いっぱいまで「本当にこれで大丈夫かな」と考え続ける姿があった。
林委員	内容が、秘密基地→卵のパッケージ（建造物の構造）→防災グッズ→生活便利グッズときている。まず段ボールハウスを設置し、そこからプライバシーを確保しながら生活しやすい空間を順番に整えていくという被災時の流れを連想したが意識しているのか。
事務局	課題が繋がっていけば良いなという思いはある。当クラブは同じ子が継続して活動しているのではなく、半期ごとにクラブ員を募集して1からスタートすることもあり、課題に対して小さな発展を繰り返しながら積み上げていきたいと考えている。
梶田委員長	何度か活動を直接見て、こどもたちが発想を活かして真剣に取り組んでいる姿がとても良かった。「卵を守るパッケージ作り」は「卵が割れたらだめ」とゴールがはっきりしているため思考の繰り返しが生まれている一方で、「秘密基地作り」のような課題はゴールが漠然としているため試行錯誤が生まれにくかったのではないかと感じる。例えば建造物に関する講義を受けたあと、振り返りの機会を設けるなどをすると、より自分なりの課題を持って取り組めるようになるのでは。

水野委員	技術の見方には『安全性』『経済性』『社会からの要求』『環境への負荷』の4つがある。例えば「卵を守るパッケージ作り」で考えると、『環境への負荷』の視点では紙だけで作れるのか、接着剤も必要なのか、そこに『経済性』が入るとどれだけ少ない量の紙でできるのか、と視点が增えることで課題を増やして広げていける。「とりあえずやってみよう」が合言葉とのことだったが、失敗をプラスに考えられる言葉がさりげなく貼ってあっても言葉に持久力を持たせることができて面白そう。
事務局	発明クラブの活動ではないが、こまきこども未来館において「失敗グランプリ」を開催した。大人たちがこれまでの失敗を披露し、こどもたちの次の挑戦に繋げていけるきっかけになってほしいと考えている。
川尻委員	前期後期ともに3か月ずつというのは、課題を見つけるには短いように感じる。令和7年度のサポーターの増員と募集人数の減員について、以前指導者1人で見ることができるのが4人程度という話があったが、サポーターを増やすことで将来的に募集人数も増やしていくということなのか。
事務局	期間については我々も迷いがある。活動をしていく中で「もうこれでいい」という考えから「もっとやりたい」「もっと追求したい」に変わってくると、期間を長くすることも検討しないといけない。まずは、前期に続いて後期も参加するという子を増やしていきたい。人数の変更については指導者の面に加えて場所の問題がある。こまきこども未来館で遊んでいる子との共存が上手に出来れば柔軟に対応したいと考えている。
梶田委員長	ボランティアの学生がたくさん参加してくれると良い。ボランティア活動をする子には活動証明書がほしいという声も多いのでそこへの対応もできるようにしてほしい。
事務局	発明クラブではまだ例がないが、こまきこども未来館では既にボランティアで関わってくれている学生がおり、活動証明書も用意している。それを活用する形で考えたい。
林委員	アンケート結果を見ると保護者の意識が「発明」ではなく「工作」であることがよくわかり、課題を見つけるのが難しい原因の一つのようにも感じる。その中で、専門家の講義があることはすごく効果があると思う。
梶田委員長	課題を見つけるにはベースとなる知識が必要で、その知識も初期の段階で提供する必要がある。こどもたちに「こんなことしてみたい」と思わせることが有効ではとを感じるので、その方法として講座やショールームの見学はとても良い。課題に関して、こどもたちが何をやっていのかわからないという状態にならないようゴールの設定をしてもらいたい。
水野委員	知識だけでなく技能も必要。「工作」をできる場所が近隣にはないため、

事務局	その役目を担う必要もあるのかもしれない。活動中に「発明」ができなくても、このクラブの出身者が 20 歳を過ぎてからすごい「発明」をしました、でも良いのではとも感じる。 <u>3 その他 今後の予定について</u> ・令和 7 年度第 1 回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会は、5 月頃 に開催予定。改めて令和 7 年度の活動実績報告と、令和 7 年度の活動計画 について報告。 ・委員の皆様継続的な関わりを持っていただきたく令和 7 年度より任期 を 1 年から 2 年へ変更。引き続き協力を賜りたい。
-----	---